Pioneer sound.vision.soul

スピーカーシステム

S-2EX

インターネットによるお客様登録のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

パイオニアの製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をお読みください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。取扱説明書は後々お役に立つこともありますので「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

❶記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

特長

- ■ ＴＡＤ−Ｍ１直系の最先端テクノロジー継承
- ■ ベリリウムトゥイーター採用の同軸スピーカーユニット搭載
- ■ アラミドカーボン複合振動板採用の１８ｃｍウーファー搭載
- ■ 「パーフェクト・タイムアラインメント・デザイン」採用

ご使用の前に

ご使用の前に

❶このスピーカーシステムの公称インピーダンスは、６Ωです。負荷インピーダンスが４～１６Ωのステレオアンプ（スピーカー出力端子に４～１６Ωの表示があるもの）へ接続してお使いください。

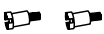
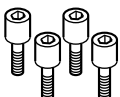
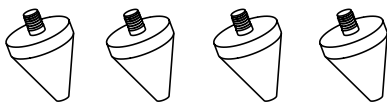
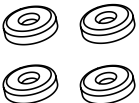
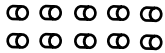
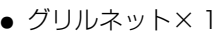
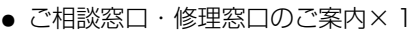
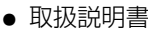
- 同軸ユニット（トゥイーター、ミッドレンジ）には強力な磁気回路を用いています。鉄などの磁性体を不用意に近づけないでください。振動板を破損する恐れがあります。

⚠スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。

- 許容入力を超えない。
- 本機を含むAV機器をアンプへ接続するときはアンプの電源をOFFにする。
- グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げ過ぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない（アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがある）。

⚠注意

［設置］

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- テレビ、オーディオ機器等に本機を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は市販のコードを使用してください。
- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せて移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。持ち運びは重いので２人以上で行ってください。
- 壁や天井に取り付けたり、棚の上など高い所に設置しないでください。グリルは取り外し可能な構造なので、きちんと取り付けていないと、グリルが外れて落ちたりしてけがの原因になることがあります。

［使用方法］

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

付属品の確認

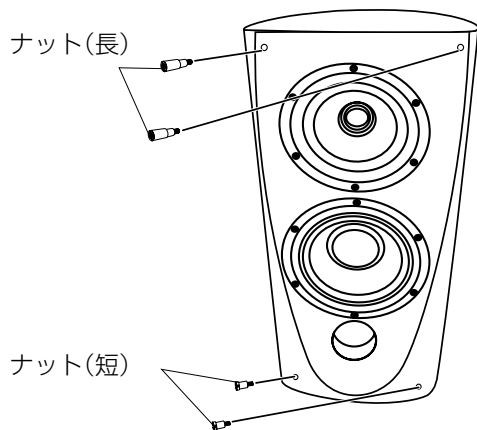
- ナット（長）×２
- ナット（短）×２
- ジョイント×４
- スパイク（スパイクナット付き）×４

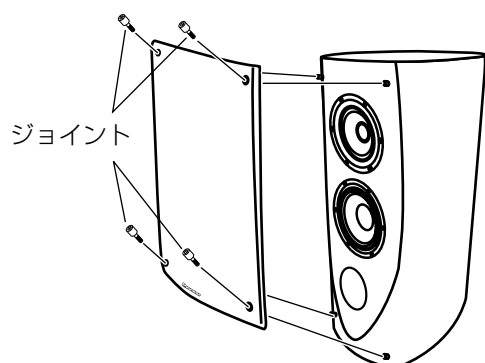
- スパイク受け×４
- クッション×１０
- グリルネット×１
- 保証書×１
- ご相談窓口・修理窓口のご案内×１
- 取扱説明書

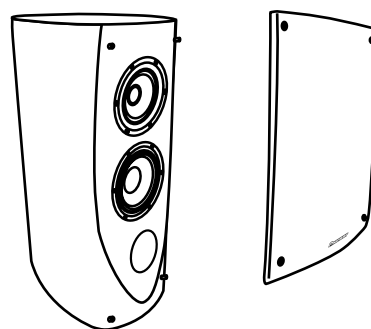
グリルネットの着脱

このスピーカーシステムにはグリルネットが付属しています。グリルネットを着脱するときは、次のように行ってください。

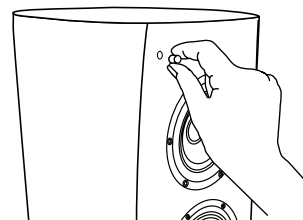
取り付け方

① 本機前面の四隅にあるネジ穴に付属のナットをねじ込みます。上部にはナット（長）を、下部にはナット（短）をお使いください。

② グリルネットの四隅にある穴部を、① で取り付けたナットに合わせて引っ掛けます。

③ 付属のジョイントを穴部にねじ込み、締め付けて固定します。

取り外し方

① ジョイントを緩め、グリルネットを取り外します。

② 本機前面の四隅にあるナットを外します。

メモ：

- グリルネットを取り外したあとは、付属のクッションを使って四隅のネジ穴をふさぐことができます。

ご注意：

- ネジを締めるときは、マイナスドライバー、六角レンチは使用しないでください。必要以上に強く締めると破損の原因となります。
- 使用しないジョイントなどの付属品は取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

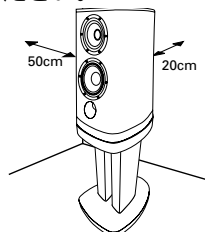
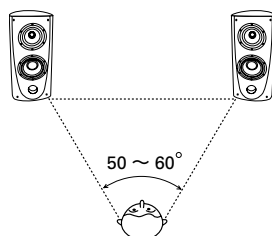
設置について

スピーカーシステムの再生音は、リスニングルームの条件によって微妙な影響を受けやすいものです。設置する場所を考慮し、最適な状態でご使用ください。

- このスピーカーシステムはブックシェルフ型です。床に直接置くと床面からの音の反射が大きくなり低音部が強調されて聴きづらくなります。この場合は置台を使用して床面から離してください。一般的には、高音用のスピーカー（トゥイーター）とリスナーの耳の高さが同じになるように設定すると良い結果が得られます。なお、置台にはスピーカースタンド（CP-2EX）をお勧めします。

  CP-2EXをお使いのときは、落下防止のため、必ずスピーカーシステムをネジで固定してください。

詳しくはCP-2EXの取扱説明書をご覧ください。

- このスピーカーシステムは、約28kgの重量があるため、設置場所は床面のしっかりした場所を選び、壁面からは、図に示す程度の距離を目安にして設置してください。後壁からの距離で低音の量感が調整できます。側壁からの距離で左右の音質差がないよう調整してください。

- 左右のスピーカーはリスニングポジションに対し等距離になるよう設置すると自然なステレオ感が得られます。スピーカーコードも同じ長さになるようにしてください。

- 和室など壁が透過性の場合は、スピーカーシステムの背面をできるだけ壁に添わせるか、反射性の物を背面に設置することをお勧めします。
- 左右のスピーカーシステムの前面がテレビ等の画面となるべく同一平面になるように置いてください。
- テレビ等の画面と組み合わせて、より良好な広がりのあるサウンドを実現するためには、テレビ等の画面を左右のスピーカーシステムの中央に設置し、左右のスピーカーシステムを聴取位置から約50°〜60°の角度に設置するのが理想的な置き方です。
- 洋間など壁面が反射または共振しやすい部屋では壁面にはカーテンで、また底面へはじゅうたんなどで対策することをお勧めします。カーテンは部屋の隅まで入れると音のこもりが少なくなります。またスピーカーの対向面が固い壁の場合も厚手のカーテンで対策すると、定在波の発生を防ぎ良い結果が得られます。

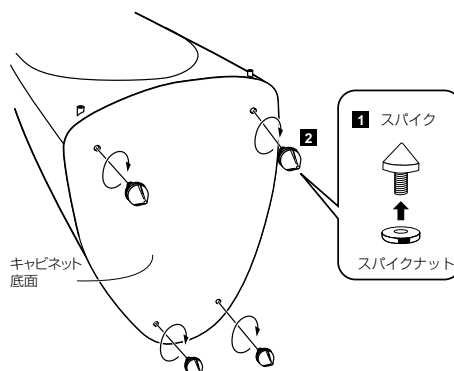
⃠ 設置上の注意

- 本機はキャビネット表面に天然木の突板を使用しております。直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。天然木の収縮によるキャビネットの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。
- スピーカーシステムは重いため、不安定な場所に設置するのは大変危険ですのでおやめください。

■スパイクの取り付け方

このスピーカーシステムには、スパイクおよびスパイク受けが付属されています。より良い音で再生するために、これらの使用をお勧めします。

手順

1. **スパイクにスパイクナットを取り付けます。**
2. **それをキャビネット底面の金属製鬼目ナット（M6）を打ち込んであるネジ部の外側４カ所にねじ込みます。**
3. **スパイクが載る設置場所の部分に、あらかじめスパイク受けを４カ所置いておきます。**
4. **スパイクナットの高さを調整し、キャビネットにガタツキがないようにします。**

スパイク受けを使用せずにスパイクだけを使用した場合、設置した床などにキズを付ける可能性があります。スパイクを使用する場合は、スパイク受けを使用することをお勧めします。

ご注意：

- 本機は約28kgの重量があるため、傾けながらスパイクの取り付け作業を行うことは大変危険です。キズのつかない柔らかい布などの上にねかせて、必ず２人以上で作業してください。

接　続

アンプとの接続

接続するにあたって、本機にはスピーカーコードは付属しておりません。スピーカーコードは次の点に注意してお選びください。

① できるだけ太い芯線のものを使用し､必要以上に長くしないでください。

② 左右の長さが異なる場合は､長い方に合わせて同じ長さにして使用してください。

③ 種類により固有のキャラクターを持つものがあります。注意してご使用ください。

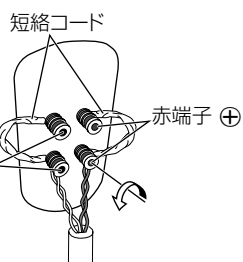
④ 接触抵抗ができるだけ小さくなるように、スピーカー端子とアンプへの接続はしっかり固定してください。

コードの接続

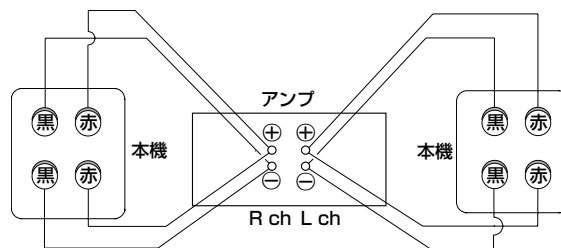
① アンプの電源スイッチを切ってください。
(POWER OFF)

② スピーカーシステム裏側の入力端子(下側)へ、スピーカーコードを接続します｡入力端子の極性は赤がプラス(+)、黒がマイナス(−)です。

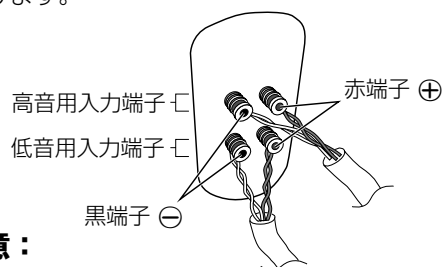
③ スピーカーコードをアンプのスピーカー出力端子につなぎます｡(詳しくは､アンプの取扱説明書をご覧ください)｡

手で下側の入力端子を(⊏)に回して緩め、スピーカーコードの先端を端子の穴に差し込み、短絡コードと共にツマミを締め付けます。

■本機の入力端子はバナナプラグでの接続もできます。

- 入力端子の先端のキャップを外して、スピーカーコードを接続します。
- 端子に接続したあとコードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音が出たりする原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- アンプに接続したときに､片方(右または左)のスピーカーシステムの極性(+､−)を間違ってつないだ場合､正常なステレオ効果が得られなくなります。

■バイワイヤリング接続

スピーカーコードは片チャンネルあたり低音用と高音用におのおの２本必要です。低音用と高音用にそれぞれ異なったコードを使用し変化ある音色を楽しむこともできます。

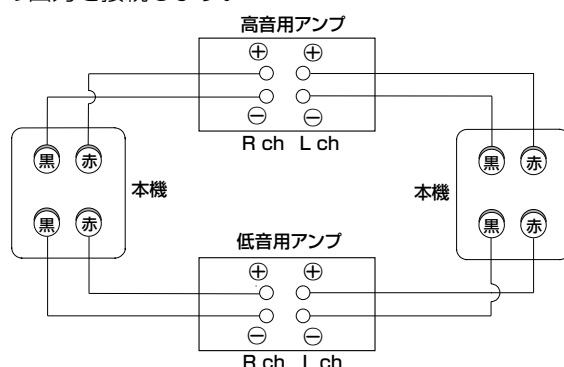
1. 入力端子のツマミを左側(⊏)に回して緩め、短絡コードを2本取り外してください｡この状態で低音用スピーカーと高音用スピーカーが完全に独立します。

2. 上側が高音用、下側が低音用です｡それぞれの入力端子にスピーカーコードを差し込み､ツマミを締め付けます。

ご注意：

この時、コードの極性を逆に接続すると本機の音声が著しく損なわれることがありますので｢コードの接続｣の項を参照して正しく接続してください。

3. 同じチャンネルの低音専用コードと高音専用コードは、アンプのSPEAKERS端子(+、−を間違えないように)と同じ端子に接続してください。

■バイアンプ接続の場合

さらにグレードの高い接続法としてバイアンプ接続があります。バイワイヤリングの時と同様に入力端子板の短絡線を完全に外した状態で、低音用入力端子には低音専用アンプの出力を、高音用には高音専用アンプの出力を接続します。

仕　様

形式 .... 位相反転式、 ブックシェルフ型
防磁設計(JEITA)
スピーカー構成（3 ウェイ方式）
　ウーファー .... 18 cm コーン型
　ミッド/トゥイーター
　........................... 同軸14 cm コーン型/3.5 cm ドーム型
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 ....34 Hz～100 kHz
出力音圧レベル ....86.5 dB(2.83 V)
許容入力
　最大入力(JEITA) .... 200 W
外形寸法..................291(幅) x 565(高) x 425(奥行) mm
質量 .... 28 kg
付属品 ....ナット（長） x2
ナット（短） x2
ジョイント x4
スパイク（スパイクナット付き） x4
スパイク受け x4
クッション x10
グリルネット x1
保証書 x1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 x1
取扱説明書

- 上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

はパイオニア（株）の開発したＰＨＡＳＥ CONTROL技術コンセプトに基づき録音から再生までの位相特性のマッチングを図った製品に付与される商標です。

世界最高峰のスタジオエンジニアとの共同音質チューニングの実施（協力：エアースタジオ）

保証期間中(1年間)、および保証期間経過後の修理についてはお買い上げの販売店、または最寄りのサービスステーションにご相談ください。所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。なお、本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年間です。

補修用性能部品とは本機の性能を維持するために必要な部品です。

ご注意：

- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムです。設置のしかたによっては、色むらが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色むらを発生するような場合には、スピーカーをさらに離してご使用ください。近くに磁石や磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。

とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所への音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

キャビネットのお手入れ

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で５～６倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン 0070－800－8181－22
一般電話　【一般電話】03－5496－2986
●ファックス受付　03－3490－5718

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）0120－5－81095　ファックス（フリーダイヤル）0120－5－81096
一般電話　0538－43－1161

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜 9：30～19：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）0120－5－81028（ゴーバイオニア）　ファックス（フリーダイヤル）0120－5－81029
一般電話　03－5496－2023

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　098－879－1910　ファックス　098－879－1352

インターネットホームページのご案内

●インターネットによる修理受付が出来ない場合は、修理受付センターへお問い合わせください。

パイオニアホームページ　http://www.pioneer.co.jp/

●お客様サポート　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
商品について良くあるお問い合わせ・カタログ請求・お客様登録など
●修理の窓口　http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html
問い合わせ先案内・修理受付（家庭用オーディオ／ビジュアル商品対象）・進捗状況確認など

VOL.014

© 2005 パイオニア株式会社　禁無断転載

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒１丁目４番１号

<05J00001>　<SRA1433-B>